

令和 8 年度 佐賀県 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通して、積極的に自分の考えや気持ちを伝え合い、コミュニケーションの楽しさや喜びを実感する児童の育成

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①各研修会のアンケートから、言語活動を中心とした授業づくりへの理解が進んでいる。
(R7小学校・中学校英語指導力等向上研修の講演が参考になった 100%)
(R7小学校英語担当教師研修の受講が有意義であった 97%)
- ②小中連携の視点をもった授業づくりへの理解が進んでいる。
(R7小学校・中学校英語指導力等向上研修が小中連携に役にたった 98%)
- ③R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「英語の勉強は好きですか」に肯定的な回答に成果が見られる。
(R6:県72.0% 全国69.3%)

未だ改善が必要な点

- ①言語活動を中心とした授業改善への意欲を喚起することはできたが、その指導の具体例を学校現場に示していく必要がある。
- ②ALTの参画の数値がR5年度増加したが、言語活動の充実を図るためにさらなる改善を図る必要がある。
(児童のやり取りの相手にALTが参画した学校 R4:87.5%⇒R5:90.0%)

2. 要因分析

- ①佐賀県英語学力向上対策検討委員会での意見を参考に、「言語活動の充実を図る3つのポイント」を作成し、各研修会で言語活動について周知したことで改善していると考えられる。
- ②小中連携の視点をもって授業づくりの演習を行う研修会を行っており、小学校と中学校の系統性を意識した授業づくりを行う学校が増えてきていると考えられる。
- ③英語専科教員の教員配置校の割合は約70%で、専門性を生かした指導を行うことで、児童が英語を使いながら学習を楽しむ環境づくりができてきている。

①英語専科教員及び英語担当教員が、学習指導要領の理解を深めたり、情報交換をしたりする機会が少ないことが要因と考えられる。

②ALTが参画する授業の具体例（モデル）を示すことやALTとの打合せの時間がとることなどが、十分ではないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 市町教育委員会、英語担当教員の共通理解の推進
 - ・外部有識者を含む英語学力向上対策検討委員会における意見の周知
 - ・「言語活動の充実を図るための3つのポイント」
 - ・佐賀県版「CAN-DOリスト」及び「パフォーマンステスト事例集」
 - ・SAGA eスタディ（英語デジタル教材）
- ② ①小中連携の視点をもった授業づくりの推進
 - ・小学校・中学校英語指導力等向上研修（東松浦地区）
小中連携を意識した単元づくりや言語活動について理解を深める。
- ③ ①②言語活動の充実を図るための研修の推進
 - ・小学校英語担当教師研修
英語専科教員の実践を英語担当教員と共有
言語活動を通じた指導やALTとの効果的なTTなどの情報交換
 - ・指導主事による学校訪問（教育事務所・支所の学校訪問随時、専科教員訪問）
 - ・小学校スーパーティーチャーの授業動画の活用
- ④ 児童がコミュニケーションの楽しさや喜びを実感する場の設定
 - ・グローバルデイ
実施校の希望に応じ、県内在住外国人等を講師として小中学校に派遣し、外国語文化に直接触れる機会を提供
- ⑤ 英語担当教員の専門性を高める手立て
 - ・外部検定試験 TOEIC IP オンライン実施（～R6参集）
1時間で受験可、期間内いつでも受験可、問題集の配付有
 - ・一定の英語力を有する小学校教員の新規採用の推進
採用率は、R5年度5.2%、R6年度14.5%、R7年度5.1%だった。今後も、採用時に特別選考の枠を設けて、英語力がある教員の採用を推進していく。



第3回英語学力向上
対策検討委員会



SAGA eスタディ

令和 8 年度 佐賀県 英語教育改善プラン

言語活動を通して、コミュニケーションの楽しさや喜びを実感し、積極的に自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成

目標

○授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている教師の割合（R7：75.7%⇒R8：85.0%）

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：41.9%⇒R8：58.0%）

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①言語活動の充実
「授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている」
（R6:76.2%⇒R7:75.7%）
「パフォーマンステストをゴールに設定した単元づくりを行っている」
（R6:79.0%⇒R7:85.0%）
「自分の考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動毎時間を行っている」
（R6:75.7%⇒R7:80.1%）
②「発話の50%以上の時間を英語で行っている」と答えた教師の割合について、改善が見られる。
（R6:67.8%⇒R7:72.6%）
※データは県独自調査
③CEFR B2相当の資格を取得している中学校英語教員の割合は増加傾向にある。
（R6:44.4%⇒R7:59.4%）

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力がある中学 3 年生の割合は0.8ポイント増加したが、R9年度の目標値60%を下回っている。
（R6:41.1%⇒R7:41.9%）
②研修会のアンケート等の結果から、学力差に応じた指導の工夫の必要性が挙げられている。

2. 要因分析

- ①②佐賀県英語学力向上対策検討委員会での意見を参考に作成した「言語活動の充実を図る3つのポイント」等を、市町教育委員会や中学校英語部会と連携をしながら改善に取り組んだことで、言語活動を中心とした授業改善が進んだ。
②学習者中心の授業への転換が進んだことで、教師の説明が減り、生徒が理解できる英語を用いた導入や指示など、教師の英語による発話に改善が見られた。
③外部検定試験をオンラインにしたことなどにより、教師が英語力を高める機運が高まっていることが要因と考えられる。

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を目指す土壌づくりに成果が見られる一方、CEFR A1レベル相当以上を客観的に判断することをさらに充実させていく必要があると考えられる。
②教員がモデルとなる授業を見に行ったり、具体例を共有したりする機会が少ないこと、学力差に応じた指導の研修が不十分であることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①① 生徒の英語力向上に係る事業の推進
ア 外部有識者を含む英語学力向上対策検討委員会
・第5回（9月）R7年度英語教育実施状況調査について
・第6回（2月）R9年度以降の英語教育に係る取組について
イ「中学生の英語力向上事業」
・3市町（唐津市、嬉野市、基山町）の中3生に英検受験の全額負担
・結果分析、意識調査等による効果測定
ウ 市町教育委員会、英語担当教員の共通理解
・「言語活動の充実を図るための3つのポイント」
・「複数単元を通じた指導と評価の計画例」（R6～R7中英研と協働作成）
・「言語活動の例」及び「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の判断について」の周知
・英語担当教師アンケート（6月、10月）
・SAGA eスタディ（英語デジタル教材）及びMEXCBTの活用
①② 言語活動の充実を図るための研修の推進
・小学校・中学校英語指導力等向上研修（東松浦地区）
・中学校英語担当教師研修
・中学校英語授業力向上研修（R6～中英研共催）
・指導主事による学校訪問（教育事務所・支所の学校訪問随同行）
③ 生徒がコミュニケーションの楽しさや喜びを実感する場の設定
・グローバルデイ（県内在住外国人等を講師として小中学校に等に派遣）
・国際理解キャンプ（外国人講師等との活動や交流を通じた学習・体験）
・佐賀県中学生・高校生海外留学等助成事業（短期・長期の留学を助成）
③ 外部検定試験の受験者を増加させる手立て
・外部検定試験 TOEIC IP オンライン実施（～R6参集）1時間で受験可、期間内いつでも受験可、問題集の配付有



第3回英語学力向上
対策検討委員会



SAGA eスタディ

令和 8 年度 佐賀県 英語教育改善プラン

言語活動を通して、コミュニケーションの意義や喜びを実感し、自分の考えや気持ちを論理的に表現できる生徒の育成

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 49.3%、B1以上 20% ⇒ R8 : A2以上 58%、B1以上 28%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR B1レベル相当以上を取得、または英語力を有すると思われる生徒の割合が増加した。
(R6:17.8%⇒R7:20.0%)

②英語担当教員の授業における英語の使用状況においてが50%以上の割合が増加した(R6:40.0%⇒R7:43.9%)

③授業における生徒の言語活動の割合は高い割合を維持できている。
(R5:96.6%、R6:92.9%)

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が50%手前で停滞している。
(R5:46.5%⇒R6:49.3% ⇒ R7:49.3%)

②ICT機器及びAIの活用については、改善の余地がある。

2. 要因分析

①②佐賀県英語指導力向上研修、また教育課程研修会を通して、指導と評価の一体化をテーマにして取り組んできたことが一因であると考えられる。

②③授業も実際のコミュニケーションの場であることを前提とした学習指導計画とその運用を促したことが一因であると考えられる。

①学習到達目標達成のための学習指導計画が不十分であること、または計画は立てられているが、計画と生徒の実態が合致していない場合があることが一因だと考えられる。

②ICT機器及びAIの活用については、教員間でも試行錯誤の段階であることが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③①指導と評価の一体化のための取組の推進
 - ・「CAN-DOLIST」による学習到達度目標の設定及び到達状況の把握のためのパフォーマンステストの実施を周知する。
- ①②①②教員の指導力向上のための取組の推進
 - ＜英語指導スキルアップ研修＞
 - ・ICT機器やAIの活用について実践事例を紹介し、実践を推奨する。
 - ・各校で校内研修（公開授業、授業検討会等）に取り組んでもらい、指導主事も授業参観をして助言を行う。また、公開授業への他校からの参加を推奨する。
 - ・各校でのパフォーマンステスト実践例を収集し共有する。
- ①グローバルに活躍する人材育成のための取組の推進
 - ・エンパワメントプログラムによりグローバルリーダーを育成する。
 - ・佐賀県中学生・高校生海外留学等助成事業により短期・長期の留学について経費を助成する。
- ②ICT機器及びAI活用の推進
 - ・学校訪問等でICT機器やAIを活用した授業についての情報を収集し、共有することで活用を促していく。
 - ・SAGA e スタディ（英語デジタル教材）の活用を推奨する。



SAGA e スタディ

佐賀県教育委員会

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	47	50	49	55	49	58	60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	15	20	18	25	20	28	30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	97	100	93	100		100	100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		90	47	90	66	90		95	100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100	100	
		公表（％）	100	100	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100	100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		95	95	95	95	96	98	97	98	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		80	41	80	40	80	44	85	90	

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	30	50	41	55	42	58	60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		80	60	80		85		85	90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		95	80	95		100		100	100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	99	100		100		100	100	
		公表（％）	100	99	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	99	100		100		100	100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	41	50	44	53	59	60	60	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	47	80		85		90	100	

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100	100	
		公表（％）	100	100	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100	100	